

あなたの街の部活動づくり
「運動部活動の地域移行」セミナー

～第2回京都府地域運動部活動説明会～

日 時 令和4年9月5日（月） 13時20分～16時40分

場 所 京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」

あなたの街の部活動づくり「運動部活動の地域移行」セミナー
 ～第2回京都府地域運動部活動説明会～
 開催要項

- 1 目 的 「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」を踏まえ、学校部活動の地域移行を円滑に進めるための情報を共有し、各地域における子どもたちが真にマイスポーツに親しめる環境づくりの構築を目指す。
- 2 主 催 京都府 京都府教育委員会 公益財団法人京都府スポーツ協会
- 3 日 時 令和4年9月5日（月） 13時20分～16時40分（受付 13時00分）
- 4 場 所 京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」東館 3階 大会議室
〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70
- 5 対 象 各市町村のスポーツ所管課、教育委員会、体育・スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ代表、スポーツ少年団代表
※各市町村5名程度のグループを想定
- 6 内 容 (1) 開 会
 挨拶 京都府文化スポーツ部スポーツ振興課 課長 村井 伸也
- (2) 基調講演Ⅰ・Ⅱ
 演 題 『地域移行の取組について』
 講演Ⅰ 講師 つくば市教育局学び推進課 指導主事 永岡 範之
 講演Ⅱ 講師 白岡市教育委員会教育指導課 指導主事 石島 隆志
- (3) ワールドカフェ方式による自治体別意見交流及びリアルタイム助言
 テーマ 『わたしの街の部活動づくりをスタートするために』
 コーディネーター 立命館大学スポーツ健康科学部学部長 教授 長積 仁
 アドバイザー つくば市教育局学び推進課 指導主事 永岡 範之
 白岡市教育委員会教育指導課 指導主事 石島 隆志
 京都府文化スポーツ部スポーツ振興課 課長 村井 伸也
 京都府教育庁指導部保健体育課 課長 柏木 佳久
 公益財団法人京都府スポーツ協会 事務局次長 比護 信子
- (4) ま と め
- (5) 閉 会
 挨拶 京都府教育庁指導部保健体育課 課長 柏木 佳久

7 日 程

13:00	13:20	13:30	14:15	14:25	15:10	15:20	16:20	16:30	16:40
受付	開会	基調講演Ⅰ	休憩	基調講演Ⅱ	休憩	ワールドカフェ方式による自治体別意見交流及びリアルタイム助言	まとめ	閉会	

- 8 その他 (1) 意見交流では、各自治体のテーブルとコーディネーターをチャットで繋ぎ、交流とアドバイザーからの助言を同時に展開します。
 各市町（組合）教育委員会から、Wi-Fiに接続可能なICT端末（1台）を御持参いただきますよう御協力をお願いいたします。
- (2) 感染状況等により実施について変更する可能性があります。

あなたの街の部活動づくり「運動部活動の地域移行」シンポジウム
～第2回京都府地域運動部活動説明会～

< 次 第 >

1 開 会 (13時20分～13時30分)

挨 拶 京都府文化スポーツ部スポーツ振興課 課長 村井 伸也

2 基調講演 I・II (13時30分～15時10分)

演 題 『地域移行の取組について』

講演 I 講師 つくば市教育局学び推進課 指導主事 永岡 範之

講演 II 講師 白岡市教育委員会教育指導課 指導主事 石島 隆志

3 ワールドカフェ方式による自治体別意見交流及びリアルタイム助言 (15時20分～16時30分)

テ ー マ 『わたしの街の部活動づくりをスタートするために』

コーディネーター 立命館大学スポーツ健康科学部学部長 教授 長積 仁

アドバイザー つくば市教育局学び推進課 指導主事 永岡 範之

白岡市教育委員会教育指導課 指導主事 石島 隆志

京都府文化スポーツ部スポーツ振興課 課長 村井 伸也

京都府教育庁指導部保健体育課 課長 柏木 佳久

公益財団法人京都府スポーツ協会 事務局次長 比護 信子

4 閉 会 (16時30分～16時40分)

挨 拶 京都府教育庁指導部保健体育課 課長 柏木 佳久

基 調 講 演

『地域移行の取組について』

講 演 I

講師 つくば市教育局学び推進課 指導主事 永岡 範之



茨城県つくば市の部活動改革

一人ひとりが幸せな人生を送るための
よりよいスポーツ環境構築への挑戦

4つの事例紹介と市全体の取組

茨城県つくば市教育局学び推進課 永岡 範之



つくば市の実践事例

つくば市の特徴 様々なタイプのモデル校が存在

事例1 総合型地域スポーツクラブ連携型

事例2 大学・民間企業連携型

事例3 地域企業連携型

事例4 スポーツ少年団活用型



実践事例 1 総合型地域スポーツ連携型

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

谷田部東中学校



2022.1/30 テレビ朝日「サタデーステーション」
⇒Ctrl+クリックでテレビ朝日動画ページへ

室伏スポーツ庁長官が谷田部東中の部活動を視察 つくば

2021年11月9日



2021.11/9 室伏スポーツ庁長官来校
⇒Ctrlキー+クリックでTBS動画ページへ



実践事例 1 総合型地域スポーツ連携型

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

学校現場から見る部活動の課題

- ▶ 生徒数の減少 ⇒部活動が成立しない
- ▶ 指導の限界 ⇒未経験種目を指導する苦しさ
- ▶ 働き方改革 ⇒教員の実質的な長時間勤務

谷田部東中学校の部活動改革の視点

1. 子ども達も意欲ある教員も置き去りにしない
2. 生徒も教師も選択できるシステムへ
3. 部活動改革こそが働き方改革の本丸
4. 兼業の活用 ※意欲ある教員のやりがい&指導者確保



実践事例 1 総合型地域スポーツ連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

運営の基本概要

DCAA
洞峰地区文化
スポーツ推進協会
2018年
4月設立



部活動とクラブの共存型

運営主体

- 市民団体

財源

- 受益者負担

活動日

- 週1回

事務局

- つくばFC（総合型地域スポーツクラブ）

民間と協働
指導者派遣

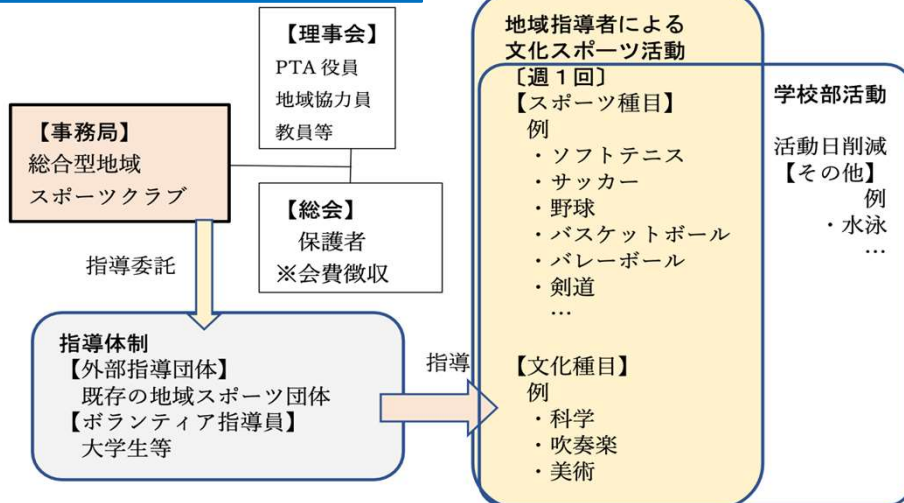
- つくばユナイテッドSun GAIA 他諸団体



実践事例 1 総合型地域スポーツ連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

運営体制





実践事例 1 総合型地域スポーツ連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

DCAA稼働前
(平成29年度まで)

	月	火	水	木	金	土	日
朝	なし	部活	部活	部活	部活	部活	部活
放課後 (日中)	なし	部活	部活	部活	部活	部活	部活

DCAA稼働後
(平成30年度以降)

	月	火	水	木	金	土	日
朝	部活なし						
放課後 (日中)	なし DCAA	部活	部活	DCAA	部活	どちらか1日可 (DCAA) DCAA(AT)	

※DCAAはどの種目も週1回、実施曜日は種目によって異なる。



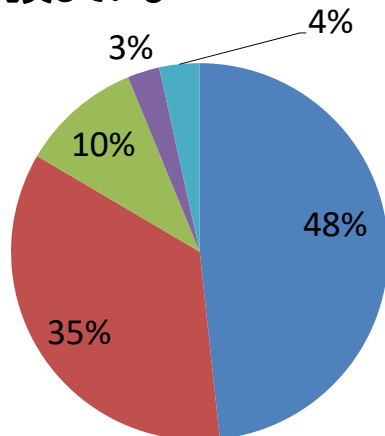
実践事例 1 総合型地域スポーツ連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

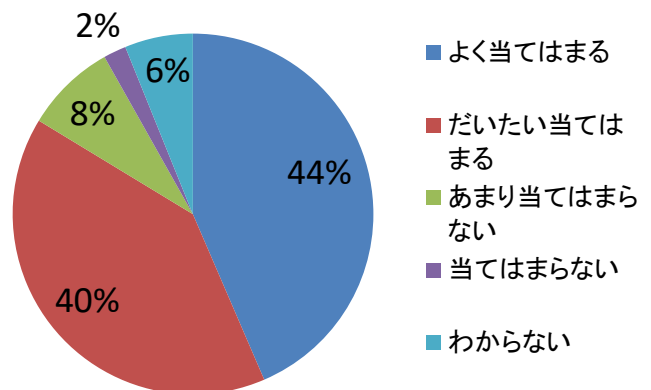
生徒アンケートより

アンケート実施日：2019/2月
実施対象者：谷田部東中1,2年生徒

入会しているDCAAの活動は充実している



自分の技術・技能の向上が感じられる





実践事例 1 総合型地域スポーツ連携型

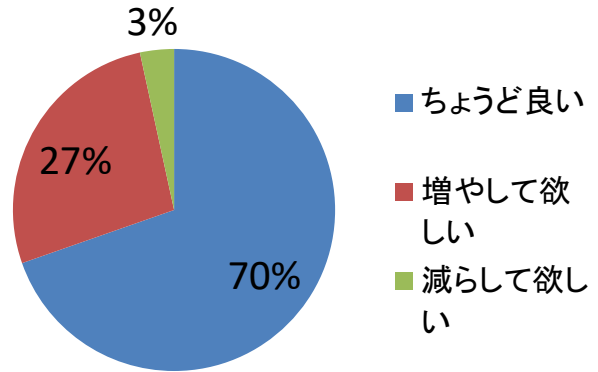
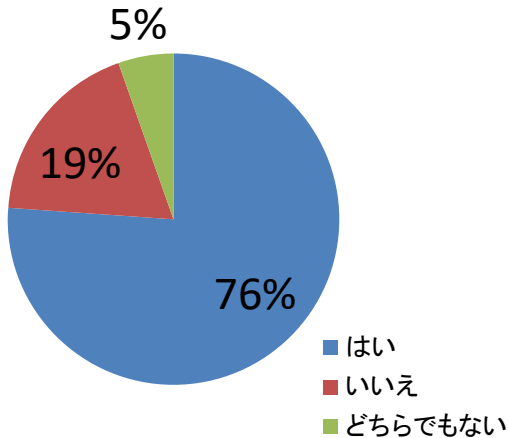
世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

保護者アンケートより

アンケート実施日：2019/2月
実施対象者：DCAA会員保護者 100名

DCAAの活動は充実しており、
楽しく参加できている

DCAAの練習日数について

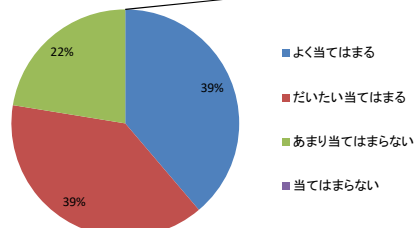
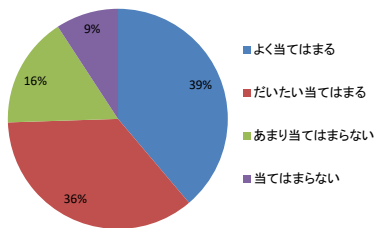


実践事例 1 総合型地域スポーツ連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

家庭で過ごす時間が増えた

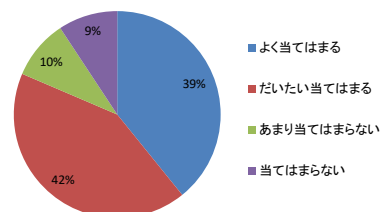
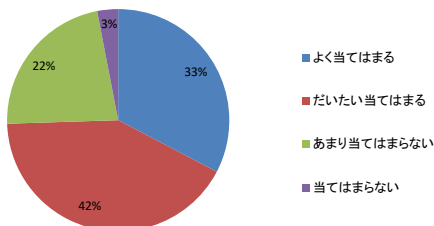
通勤時間が早くなった



教員アンケートより

勤務上の負担やストレスが軽減された

授業準備や教材研究の時間が増えた



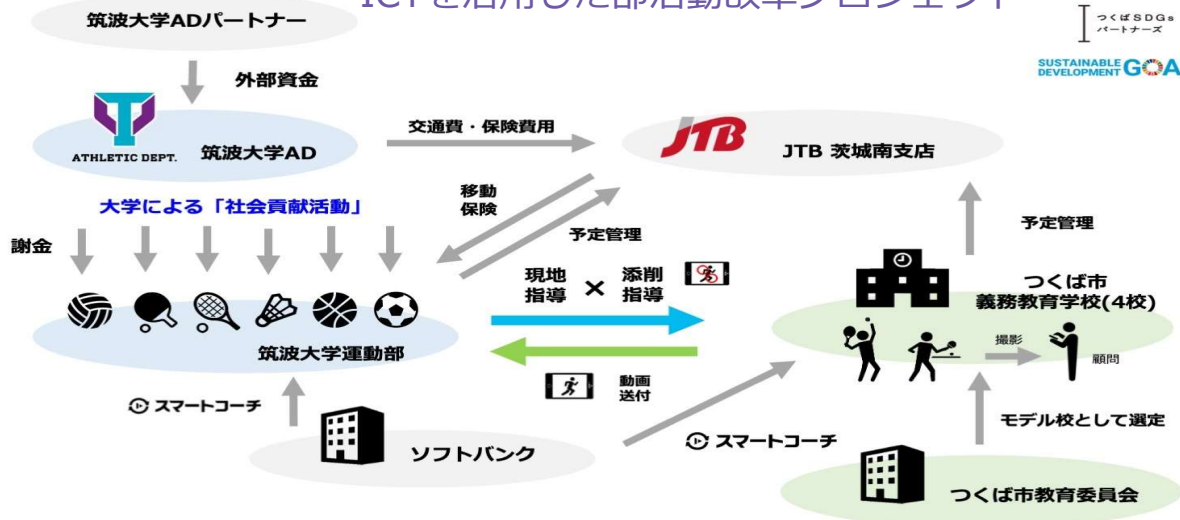


実践事例 2 大学・民間企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

R3年度取組

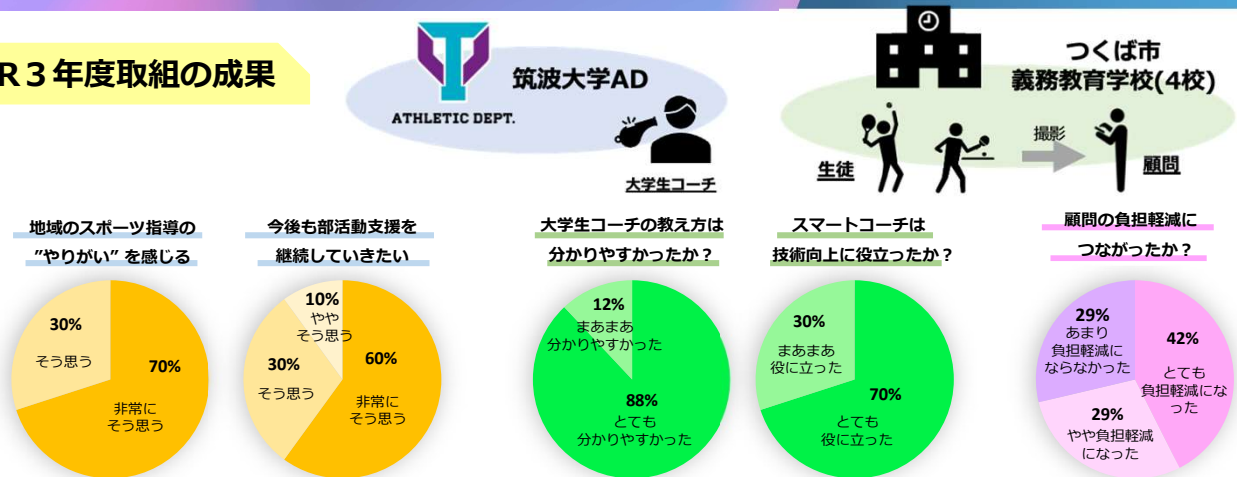
筑波大学 × Softbank × JTB × 教育委員会が連携 ICTを活用した部活動改革プロジェクト



実践事例 2 大学・民間企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

R3年度取組の成果



生徒 および 大学生コーチ の **満足度は非常に高かった** が、顧問教員の **負担軽減には課題が残る**。。。

また、文部科学省 が目指す部活動改革の実現には、「**より抜本的な改革**」が必要



実践事例 2 大学・民間企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

竹園東中学校

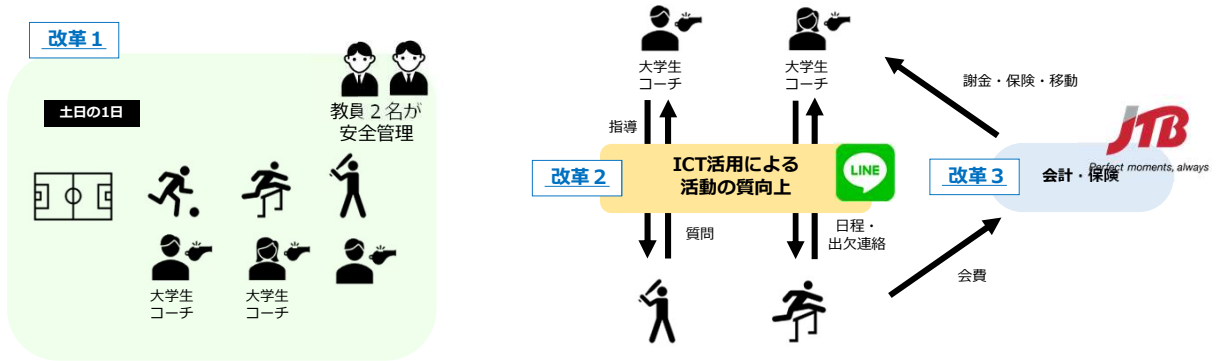
令和4年度8月20日～実証開始！

改革1：筑波大学から指導者(部活動指導員)を派遣、土日のどちらかで実施。教員2名が安全管理を行う。

改革2：ICTを活用した「練習の質向上」、及び「運営の効率化」

▶ ICTを活用した振り返りや顧問の連絡業務を削減する方法を構築

改革3：筑波大生による活動に関する費用は「受益者負担」とし、会費(10回5000円)を集める



実践事例 2 大学・民間企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

実証事業概要

日時：8/21 or 27～11月頃の土曜 or 日曜(全10回)

募集種目：土曜 午前・・・野球、男女バドミントン、女子テニス、女子卓球、剣道

土曜 午後・・・陸上、男女バスケ

日曜 午前・・・サッカー、女子バレー、男子テニス、男子卓球

謝金：時給 1,600円(練習時間+30分で計算) ※ 2h 4,000円

指導体制：基本的に顧問がいない状態で1人で生徒の指導にあたります
※ 安全管理・緊急時対応担当の教員が常駐

基本的に雨天でも教室等で実施します

今後のスケジュール

7/15	指導者決定
8/4	竹園東中訪問 説明会&顧問との打合せ
8/20 or 27	指導スタート





実践事例 2 大学・民間企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

大学が「指導者研修」で指導者の質を担保

移行準備期間は、教員がシフト制で「安全管理」⇨ 緊急対応等にあたる



【主催】筑波大学アスレチックパートナーシップ【講師協力】NPO法人スポーツコーチングイニシアチブ【協力】つくば市教育課

第1回
6.23(木)
17:00~19:00
筑波大学 5C000

テーマ
『コーチングの基礎1』

コーチングの心算
令和時代求められる指導者像とは？！
子どもたちどう向き合い、スポーツを通して何を伝えるかを意識的に考える2時間。

石渡圭輔氏
NPO法人スポーツコーチングイニシアチブ

稲垣雅希氏
筑波大学スポーツリサーチ/パートナー

お申し込みはこちらのフォームより
締切：6/23 12:00

コーチングスキルを向上させたい方や、コーチ教育の研究者の方々の参加、お待ちしております。

実証スタートに向けた準備



顧問教員と大学指導員との打合せ



連絡・調整アプリ活用の説明



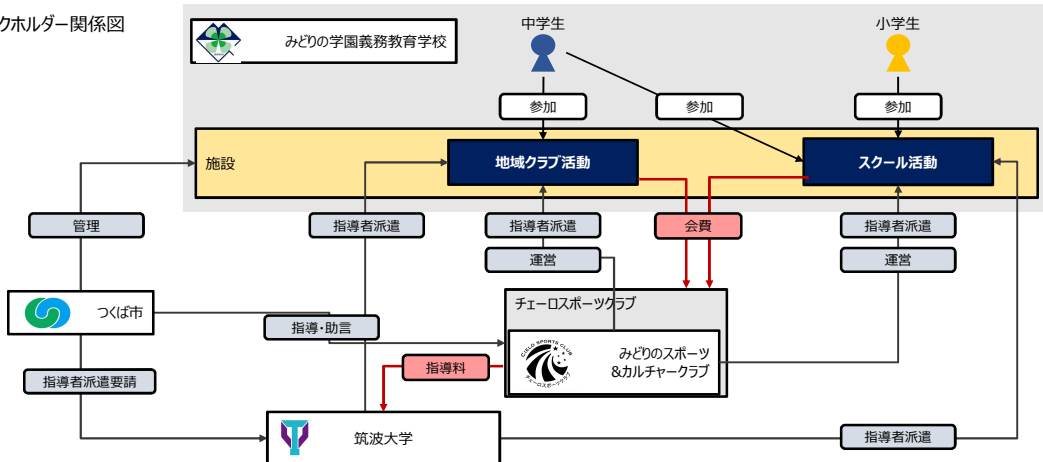
実践事例 3 地域企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

みどりの学園義務教育学校 小学生対象のスクール活動から一体的に活動を行い、中学生向けの地域クラブ活動の会費の負担を軽減することで、持続可能な取組へ

プロジェクト名 部活動2.0 みどりの学園部活動地域移行プロジェクト

■ステークホルダー関係図





実践事例3 地域企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

株式会社エンボス企画 主力事業概要

■主力事業 概要

スポンサー支援事業



スローガン	「みんながVIVA (=88) と笑う」
事業内容	22年から開始。様々な企業、店舗が出店し、子どもたちを中心に多世代が交流、楽しめる場を提供するイベントとして年5回開催。今年度は既に2回開催。

スポーツクラブ部門



スローガン	「スポーツとの出会い」は一生に一度
事業内容	21年3月創設。つくばみどりの地域にて、「スポーツの本当の楽しさを心から味わえる環境を整えたい」という想いで設立されたつくば市唯一のスポーツ保育園。

スポーツクラブ部門



スローガン	「ココ踊る。カラダ動く。」
事業内容	21年5月創設。つくばみどりの地域にて、未就学児から全年齢向けに様々なスポーツプログラムを提供している。

スポーツクラブ部門



スローガン	「できた！」がいっぱい体験できる
事業内容	22年4月創設。つくばみどりの地域にて、スポーツ教育に強みを持つ唯一の放課後教育施設。



実践事例3 地域企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

地域クラブ活動と学校部活動の比較表

22年度について、地域クラブ活動と学校部活動の違いは以下の通り

	地域クラブ活動	学校部活動
メリット	専門的な指導を受ける事ができ、技術力の向上が期待できる 週末の試合や大会に多く参加できる	無料で参加できる
活動日	木曜日、週末（土曜日、日曜日）いずれかの週2日	火曜日、水曜日、金曜日の週3日
会費	月額 3,850円	無し
指導者	種目の専門性を持った指導者、学校の教諭 ※指導者はエンボス企画主催の指導者講習を受講	学校の教諭
練習試合・大会	全て参加可能	中体連主催の大会のみ参加可能
入会・退会 入部・退部	任意のタイミングで可能。 ※月途中で退会の場合、会費の払い戻しは不可	任意のタイミングで可能
活動場所	みどりの学園義務教育学校の学校校舎、グラウンド、体育館	みどりの学園義務教育学校の学校校舎、グラウンド、体育館



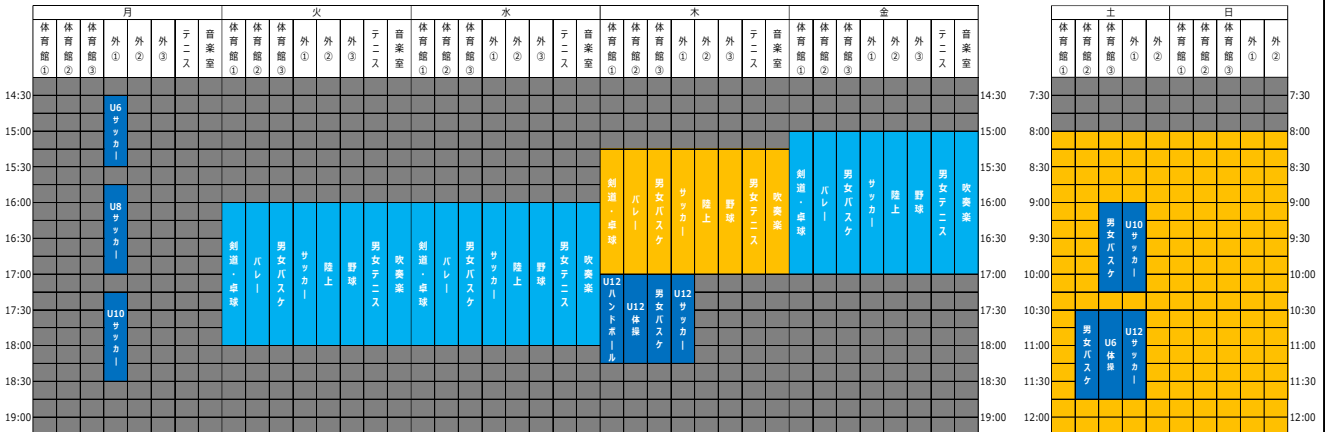
実践事例3 地域企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

地域移行後の部活動タイムスケジュール案

移行後は、毎週木曜日+週末のどちらかを地域クラブ活動、小中連携でのスクール活動を土曜日に実施

■ 2022年9月以降の1週間のスケジュール/担当部門 ■ 地域クラブ (移行分/受益者負担) ■ 現行部活動 (移行せず/無料) ■ スクール (収益事業/小中連携での練習)



※ 週末については参考として午前中を記載しております。大会や他部活動の試合等の兼ね合いや競技特性により活動が午後や終日になる可能性があります。



実践事例3 地域企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

スクール活動について

本事業では並行して小学生向けのチェーロススポーツクラブ、みどりの学園義務教育学校クラスを開校します。



開校記念キャンペーン実施中!
9/30までに入会すると年会費が「永久無料」

クラス名	チェーロススポーツクラブ みどりの学園義務教育学校クラス
種目	サッカー、体操、ハンドボール、バスケットボール
対象年齢	U6 (未就学児) U8 (低学年) U10 (中学年) U12 (高学年)
会費	[9/30までに入会] 登録料13,200円+月会費6,600円 【10/1以降に入会】年会費(1,100円×入会月から3月までの残り月数)+月会費6,600円 ※月会費は週1回参加の場合の価格です。毎月月末までにお支払いをお願いします。 ※例えば11月に入会した際は、1,100円×5か月+6,600円=11,000円がかかります。

■コーチ紹介



小山勇氣コーチ
サッカー、体操担当



宮本英明コーチ
サッカー担当



赤松稜平コーチ
サッカー担当



今龍誠コーチ
ハンドボール担当



翁長明弘コーチ
バスケットボール担当

	月曜日	木曜日	土曜日
9:00~10:15			サッカー U10 バスケットボール
10:30~11:45			サッカー U12 体操 U6 バスケットボール
14:30~15:30	サッカー U6		
15:45~17:00	サッカー U8		
17:00~18:15		サッカー U12 体操 U12 ハンドボール U12 バスケットボール	
17:15~18:30	サッカー U10		



実践事例 3 地域企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

みどりのSCC 指導者条件概要

■指導条件 概要

勤務管理

- ✓ 指導者⇄弊社で業務委託契約を締結いたします。契約は基本的に単年契約となります。
- ✓ 各レッスンの実施時間については原則1時間～1時間半となっておりますが、土日の試合や大会前の練習時間の延長などは現場にてご判断ください。
- ✓ やむを得ない事情により欠席となる場合には、弊社へご連絡ください

学校部活動との連携方法

- ✓ 各種目の学校部活動顧問・みどりのSCC指導者・エンボス企画担当者の3者で毎週情報共有を行います。
- ✓ 情報共有に使用するツールは“Slack”を予定しております。
- ✓ 情報共有事項は下記の通りです。
活動日時/活動テーマ/活動メニュー/所感・コメント 等々

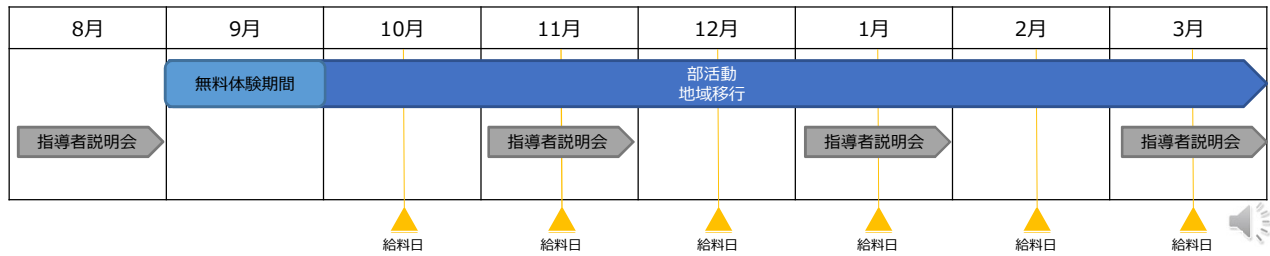
給与

- ✓ 【地域クラブ活動】（平日）4,000円/レッスン（休日）8,000円/レッスン
- ✓ 【スクール活動】（個人）4,000円/レッスン（事業者）8,000円/レッスン
- ✓ レッスン毎にお支払いしますので、レッスンの実施時間が増減した際も一律上記の金額にてお支払いいたします。
- ✓ 月末締め翌月15日にお振込みいたします※無料体験期間も含む

保護者との連絡方法

- ✓ 出欠については“LEBER”にて一括管理いたします。
- ✓ 出欠以外の連絡については、基本電話での対応いたします。
※各種目の指導者は、代表番号を弊社へお知らせください。

■指導スケジュール（22年度）

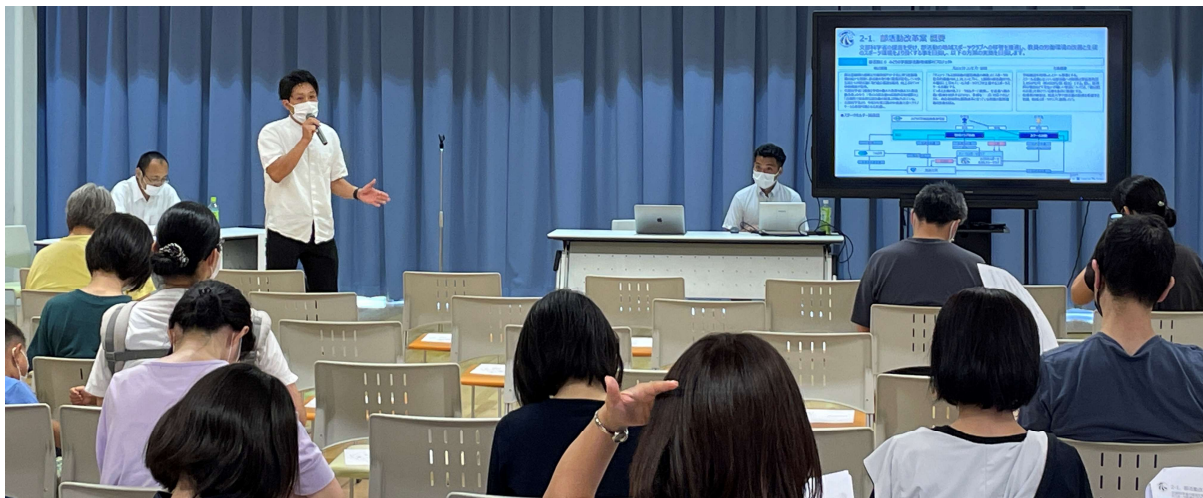


実践事例 3 地域企業連携型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

8月 保護者説明会を実施

9月から1ヶ月の体験コースを実施予定、10月から本格実施！





実践事例 4 スポーツ少年団活用型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

全市型スポーツ団体構想

- ①既存のスポーツ少年団モデルの活用
- ②エリアごとの拠点校モデルも視野に構想
- ③オンラインスポーツプログラムの提供（つくば市・筑波大学）
- ④将来的には、様々な団体がまとまって1つの組織へ

- ・現在の少年団の体制を利用し、「中学部」を設立できないか検討する。
- ・エリア別に主な種目が設立できるように各団体に相談していく。



6つのエリアに分けた例



実践事例 4 スポーツ少年団活用型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

スポーツ少年団の実態調査（R3）

〇市内少年団への調査結果より（43団体が回答）

「現在の団体に中学生を参加させることは可能ですか？」

- ・すでに中学生が参加している 37%
- ・可能である可能性が高い 23%
- ・新規で立ち上げるなら可能 2%

計62%に可能性あり

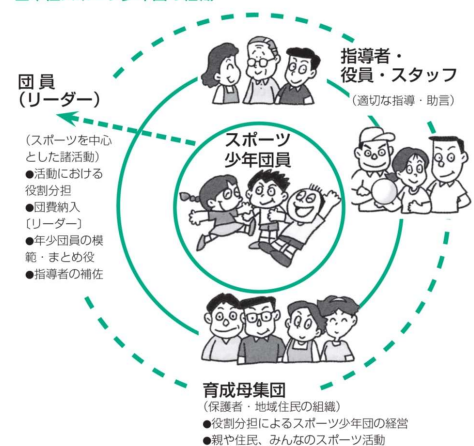
特徴

団員10名以上、指導者2名以上

（指導者2名以上がをスポーツ少年団の理念を学んだ有資格者）

育成母集団という、団体運営のマネジメントを行う役割が存在する。育成母集団を保護者会で組織する団体や、指導者やチームの役員が兼務する団体など、様々である。

■単位スポーツ少年団の組織





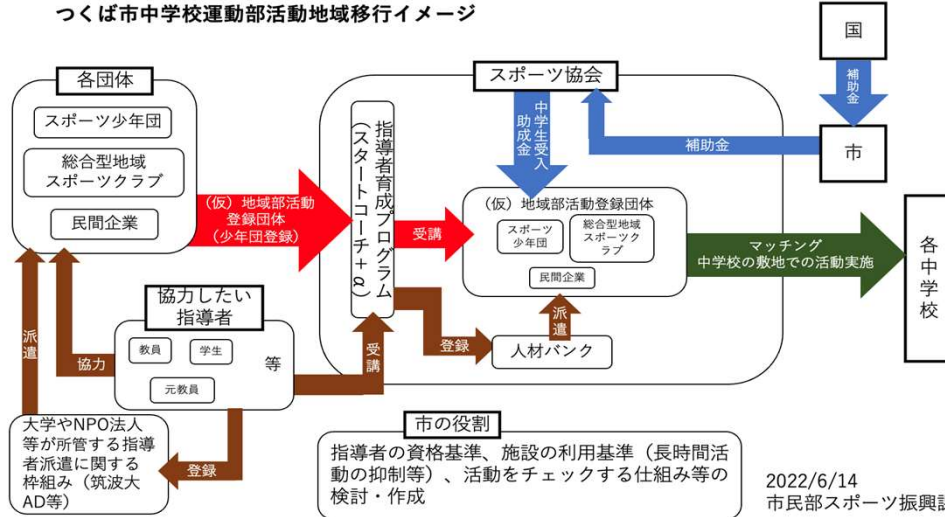
実践事例 4 スポーツ少年団活用型

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

行政内プロジェクト組織で構想、検討、今後へ

(教育委員会、スポーツ振興課、スポーツ協会、教育総務課、文化芸術課)

つくば市中学校運動部活動地域移行イメージ



つくば市全体としての取組

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

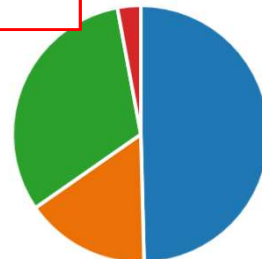
部活動顧問意識調査結果から (R3実施)

市内全校対象：378名が回答

9. 担当している部活の専門性について

約32%

- 学生時代に自分が経験してきた... 186
- 経験はなかったが、教員としてその... 59
- 専門外の種目である 119
- その他 11



約32% (119名) の顧問が専門外の種目で指導している

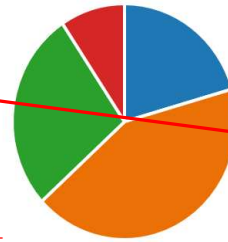


つくば市全体としての取組

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

11. 現在の部活動への負担感について

とても負担感がある	77
やや負担感がある	160
あまり負担感はない	103
まったく負担感はない	35



負担感あり
約63%

負担感のない教員のうち、23名は量的に少ないから等と回答、
その他115名はやりがいや好き、楽しいから等と回答

心身の疲労や指導力不足などの負担感を感じている顧問が多い

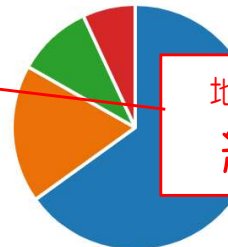


つくば市全体としての取組

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

15. 休日の部活動を、段階的に地域移行することについて（地域移行とは、家庭から会費を徴収し、部活動の代わりに地域のスポーツクラブ等に所属するコーチが指導すること）

地域移行を進めてほしい	244
特に地域移行は希望しない	68
すでに一部地域移行している	37
その他	26



地域移行を希望
約65%

約65%の顧問が地域移行を希望している



つくば市全体としての取組

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

兼職兼業モデル校（1名）の実証結果

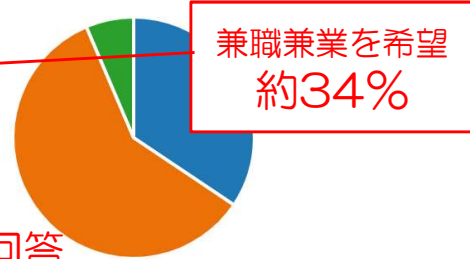
【1カ月当たりの超過在校等時間】

○4、5、6、10月の平均値（7、8、9は夏季休業、コロナ休校のため除く）

・本務関係超過時間...25h24m、部活指導...16h、兼業時間...13h
合計平均超過時間...54h24m

18. 休日の部活動が地域移行になった場合、人材の確保が課題になりますが、あなたがスポーツクラブ等に所属する立場として、クラブから報酬をもらいながら指導する兼職兼業が可能であるとしたら希望しますか？

● 希望したい	129
● 希望しない	222
● その他	24



約34%の顧問が兼職兼業を希望したいと回答



つくば市全体としての取組

世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

部活動指導員の増員

令和4年度部活動指導員活用状況

現在、延べ33名(13校)で活用

R3は延べ18名(6校)の活用

大幅に増員

内訳			
・合田部東中	4名	・秀峰義務教育学校	1名
・峯崎中	3名	・並木中	2名
・高崎中	4名	・桜中	2名
・手代木中	7名	・大穂中	4名
・竹園東中	3名	・吾妻中	1名
・春日義務教育学校	1名	・豊里中	1名
		・高山	1名

※筑波大学アスレチックデパートメント協力のもと、多くの筑波大学生を派遣していただくことができました。次年度は更に予算拡大要求を予定、更に4月から任用できるように調整中



つくば市全体としての取組

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

平日練習日を市全体で1日削減

※地域移行が始まっていない学校が対象

令和4年11月第1週目から開始

■目的

- ・放課後の時間の使い方を選択できる環境づくり
- ・生徒の多様なスポーツニーズへの対応
- ・教員の働き方改革によって生徒へ還元

※令和4年7月に保護者宛通知を发出済み
反対意見等の問合せは今のところない。



つくば市全体としての取組

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

令和4年度：筑波大学との連携による取組

案1：筑波大学を拠点とした「スポーツ教室」

- ▶ 平日に筑波大学でスポーツ教室を開催する



案2：ICTを活用した「オンラインスポーツプログラム」

- ▶ ICTを活用し、各学校または自宅で参加できるオンラインスポーツ教室のを開催



案3：地域拠点校（義務教育学校等）での「スポーツ教室」

- ▶ 大規模中学校に筑波大学生を派遣し、近隣の中学生が集まって行うスポーツ教室を開催





何のための部活動改革か？目的を常に考える。

■ 生徒にとっての意義とは？

◎生徒一人一人のニーズに合わせた選択ができる環境へ
団体や指導者の選択：勝ちたい/楽しみたい/指導法/時間の使い方等
生涯スポーツの視点バーンアウト、ドロップアウトを阻止

■ 教員にとっての意義とは？

◎本来の業務に専念し生徒に還元できる環境へ
教材研究・授業力の向上、生徒に向き合う時間の確保等
そのために教員が選択できる環境を（部活顧問の選択/兼職兼業）



実践というチャレンジで得られる成果を
全国に共有し、大きな動きにつながることを願い

生徒にとって・教師にとって・社会にとって
一人ひとりが幸せなスポーツ環境を



令和3年度地域部活動推進事業における成果報告書

拠点校：つくば市立谷田部東中学校

つくば市教育委員会

1 取組概要

谷田部東中学校では、平成30年に洞峰地区文化スポーツ推進協会「DOHO Cultural&Athletics Academy (DCAA)」を設立し、市民団体を運営主体として地域部活動に取り組んできた。令和3年度は推進事業を受け、受益者負担による運営で更なる実証研究を行いながら成果をあげてきた。10種目の地域部活動を設定し、週に1回程度の活動を実施し、コロナの影響を受け、実施できない期間もありながらも、推進事業拠点校としての実証研究及び活動が展開されてきた。

2 様々な成果

アンケート調査（令和4年2月実施）によると、約75%の生徒がDCAAの活動に満足していると回答している。（添付資料「児童生徒アンケート」参照）

また、市内で初となる兼職兼業のモデル実証研究にも取り組み、コロナの影響による休校期間や夏季休業日等を除いた超過勤務時間は、月当たり約54時間であった。この結果を参考に、今後、市でガイドラインを策定し、活用していく予定である。

令和3年11月9日には室伏広治スポーツ庁長官が視察に訪れ、その取組や成果を伝えた。その際には多くの報道関係にも注目され、その他地域からも多くの視察を受け入れ、新聞等にも掲載されてきた。（添付資料「THE RENAISSANCE OF EDUCATION 部活動編」参照）

令和4年3月17日には、市と共催という形でシンポジウムを開催する予定であり、オンライン形式での開催にすることで、市内、県内はもちろんのこと、広く周知をしながらこれまでの取組と今後の展望についての対談をする予定である。（添付資料「シンポジウム案内、チラシ」参照）

3 関係団体と円滑に地域移行を推進できる体制づくりについて

部活動地域移行の方向性について、現段階でのベストの方法はないと考えるが、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」であることから、以下のような多角的な視点から検討し、有識者会議のような場で意識共有し、提言をしていくことが必要であると考ええる。

○法的視点（労働問題）からもまずは部活動を減らすことが必要である。これを一部の校長に頼っていては、これ以上広げることができない。すでに拠点校では部活動を減らしても子供達の満足度が落ちていないこと、パフォーマンスを落としていないこ

などを実証している。部活動を段階的に減らすことを行政から提案して、その後の問題を地域全体で考えることが必要と考える。

○スポーツ科学的な視点から、毎日の活動は必要なのか、土日の活動は必要なのか、ということ議論していく必要がある。一律ではなく、生徒がスポーツニーズに合わせて選択できる環境を整えるようにするべきである。また、教育学・体育原理学からの視点（人間にとって文化・スポーツ活動の意義）も必要であり、そのような議論をする場が必要である。

○拠点校の取組の中で、「地域部活動の複線化」という視点がある。これは、学校単位での取組に加え、地域の学校である複数校が参加可能な取組を実施していくことである。男子バスケットボールでの取組を行い、複数校の生徒が混ざって練習を行い、大会にも参加してきた。今後もこのような取組を増やすことで、地域単位のスポーツ環境が整い、部活動の過熱化を防ぐ効果が期待できる。

4 課題克服について

○財源の問題…市民団体方式では約 2,500 円の会費で年 70 回の指導が可能と試算できるが、それ以上の負担はかけるべきではないと考える。官民が連携したスポーツの産業化は避けられないことが予想される。

○安全対策問題…学校単位で行っている場合、休日の怪我等への対応が必要なため、生アスレティックトレーナーなどの配置が必要なのではないか。

○指導者の問題…教員の兼業（管理職のコントロールが必要）、大学・Jspo などと連携した指導者育成とライセンス制度の確立が必要ではないか。

○大会について…練習の成果を表現する場は方法でできる。「誰がいちばん強いのか」だけが目的になってしまうと過熱化を招く。ブラジルではサッカーの全国大会なども実施していない現状もある。現在の全国大会は廃止を検討すべきと考える。中体連の大会を、地域限定のシーズン制による定期戦にすることなどが具体案となるのではないか。

○責任問題…これまでの実践から、民間が直接部活動に入ることは困難と考える。各地域で一般社団法人を設立するのが現実的ではないか。最終的には公益財団法人が運営主体になるべきと考える。

5 拠点校への支援、他地域への普及について

- 視察、シンポジウムに対する支援…スポーツ庁長官の視察の際は、県教委とともにバックアップを行った。具体的には受付業務、報道関係の対応、当日の司会等、4名が応援に入った。共催という形でシンポジウムを支援する予定である。当日はオンライン開催であるため、市のICT支援員を派遣し、オンライン環境の操作やトラブルに対応できるようにする。
- 取組の市内への周知…市主催の検討会・研修会にて拠点校の実践発表の機会を設けた。市内16校の中学校長、義務教育学校長を検討会メンバーとし、周知することで、意識を高めることができた。
- 他の実践校発表の機会の設定…2回の検討会・研修会を実施し、拠点校以外に既に実践している2校、今後に向けて地域移行に動き出している2校に実践発表の機会を設け、校長先生からその実践内容と課題を報告していただいた。2回目はオンライン形式となってしまったが、1回目は集合形式で行えたため、16校全校の校長同士が意見交換する機会も得られた。課題や不安も出されたが、平日の練習日を一日減らしてはどうかという提案もあり、このことがきっかけで市でも活動日の削減を検討することになった。
- 市全体に広めるための方策…今後の方向性として、行政として2つの方策を考えている。1つ目は平日練習日の1日削減である。平日の練習日を市内一律で3日とすることで、学校独自で行う負担を軽減し、同時に地域移行の機運を高めたいと考える。
また、市内には現在、約90のスポーツ少年団が存在し、活動している。少年団の指導者へアンケート調査を行ったところ、既に中学生が活動している団体やこれから受け入れてもよい、または新規で中学生の団体を作ることが可能である可能性が高い団体が約62%であった。このことを市のスポーツ振興課、少年団を管轄するスポーツ協会と協議し、行政主導型によるスポーツ少年団の活用構想を進めていきたいと考えている。
具体的には、市全体を6つのエリアに分け（休日に生徒が自転車で行動できる範囲）、それぞれのエリアに生徒が希望すると予想される種目をおおよそ揃えることを目指すことで、全市型の地域移行を進めていけたらと考える。会費の問題や指導者の質の問題、中学校の施設開放の問題等、課題もあるが、スポーツ少年団という既存の仕組みを活用することで地域移行の導入がスムーズとなり、生徒は全市の団体から自分に合った団体を選択できることになる。
まずは、次年度、コミュニティスクールモデル校となる学校を中心として、地域に根差すスポーツ環境をつくる第一歩を進めていきたいと考える。（添付資料「つくば市部活動の現状と今後について」参照）

6 その他

＜拠点校が考える部活動に係る教員の兼業ガイドライン（案）＞

○学校の部活動体制を整えていること。

平日の部活動は原則週3日以内

土日の部活動は原則行わない。

○超過在校時間等について

兼業は原則月8コマ、合計20時間まで

本務及び兼業時間を併せて80時間以内

令和4年7月 日

保護者の皆様

つくば市教育委員会教育長
つくば市立 学校長

部活動の平日一日削減について

日頃より学校教育活動に、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、令和4年6月6日に、文部科学省から「運動部活動の地域移行に関する検討会提言」が出され、令和5年度からの3年間を改革集中期間として部活動改革の地域移行を進める指針が示されました。段階的な部活動の地域移行が、次年度から本格的に始まる見通しであるなど、部活動の在り方が問われています。

また、現在の子供達のスポーツ・文化活動においては、部活動以外の活動に取り組む生徒も増えており、多様化が進んでいる状況です。そこで本市では、下記のとおり、平日部活動の一日削減を実施いたします。

今後は地域のスポーツ団体や大学、企業、NPO等と連携しながら、生徒にとってよりよいスポーツ・文化活動の環境を段階的に整えていく予定です。御理解、御協力のほどよろしくお願いいたします。

記

- 1 目的 生徒が放課後の時間の使い方を自分で選択することができる環境を広げ、自主性を高めるため
- 2 時期 令和4年11月 第1週～
- 3 削減する曜日 毎週（ ）曜日
- 4 その他

(1) 部活動の平日活動日1日削減に伴い、個人的にスポーツに取り組む生徒のために、下記のようなプログラムを提供する予定です。

- ① 筑波大学提供予定プログラム
 - ・オンラインでの運動プログラムの実施（ソフトバンクとの連携）
 - ・筑波大学での運動プログラムの実施（生徒が大学に出向いての活動）
- ② 市からの案内・プログラム
 - ・現在中学生が参加できるスポーツ少年団等の案内
 - ・スポーツコンディショニング等についてのオンラインプログラム
(大塚製薬との連携)

開催内容等詳細は学校から御連絡いたします。

(2) スポーツ庁「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」をご覧いただきたい場合は、右のQRコードからアクセスしてください。



問合せ
つくば市教育局学び推進課
029-883-1111 (代表)

事務連絡
令和4年7月11日

市内各中学校長 様
市内各義務教育学校長 様

つくば市教育局学び推進課長

部活動の平日一日削減について

1 経緯と目的

教員の働き方改革を踏まえた部活動改革においては、国から令和5年度からの3年間で改革集中期間として進めるという指針が出され、休日の段階的地域移行が次年度から本格的に始まる見通しである。

休日の移行については、練習試合や大会の在り方の整理や、各学校における受け皿となる文化・スポーツ環境の確保が必要となるため、段階的に進める必要がある。

一方、平日の活動一日削減については、市全体での実施が可能であるため、市では昨年度、部活動改革における検討会および研修会を通じて、平日一日削減について提案および意見集約を行い、賛成意見を多くいただいた。

このような経緯から、生徒が放課後の時間の使い方を自分で選択することができる環境を広げ、自主性を高めることを第一の目的として部活動の平日一日削減を実施する。

2 対象 中学校及び義務教育学校後期課程
(※既に平日活動日が3日の学校を除く)

3 時期 令和4年11月 第1週～

4 削減する曜日 基本的には学校裁量とするが、提供プログラムの実施を考慮すると、実施後の活動しない曜日が【月・水】または【月・木】となることが望ましいと考える。

5 希望制による提供プログラム実施予定

〈筑波大学提供予定プログラム〉

- ・オンラインでの運動プログラムの実施(ソフトバンクアプリとの連携)
- ・筑波大学での運動プログラムの実施(生徒が大学に出向いての活動)

〈市からの案内・プログラム〉

- ・現在中学生が参加できるスポーツ少年団等の案内
- ・スポーツコンディショニング等についてのオンラインプログラム
(大塚製薬との連携)

6 保護者への通知について

- ・保護者宛通知に学校名、曜日等を記載し、夏季休業日前までに通知願います。
- ・生徒には、保護者宛通知を出す前に必ず話をしておいてください。
- ・既に平日の部活動を一日削減している学校については、【先行実施校用】の文書にて通知願います。

問合せ
学び推進課 永岡 範之
029-883-1111 (4712)

基 調 講 演

『地域移行の取組について』

講 演 Ⅱ

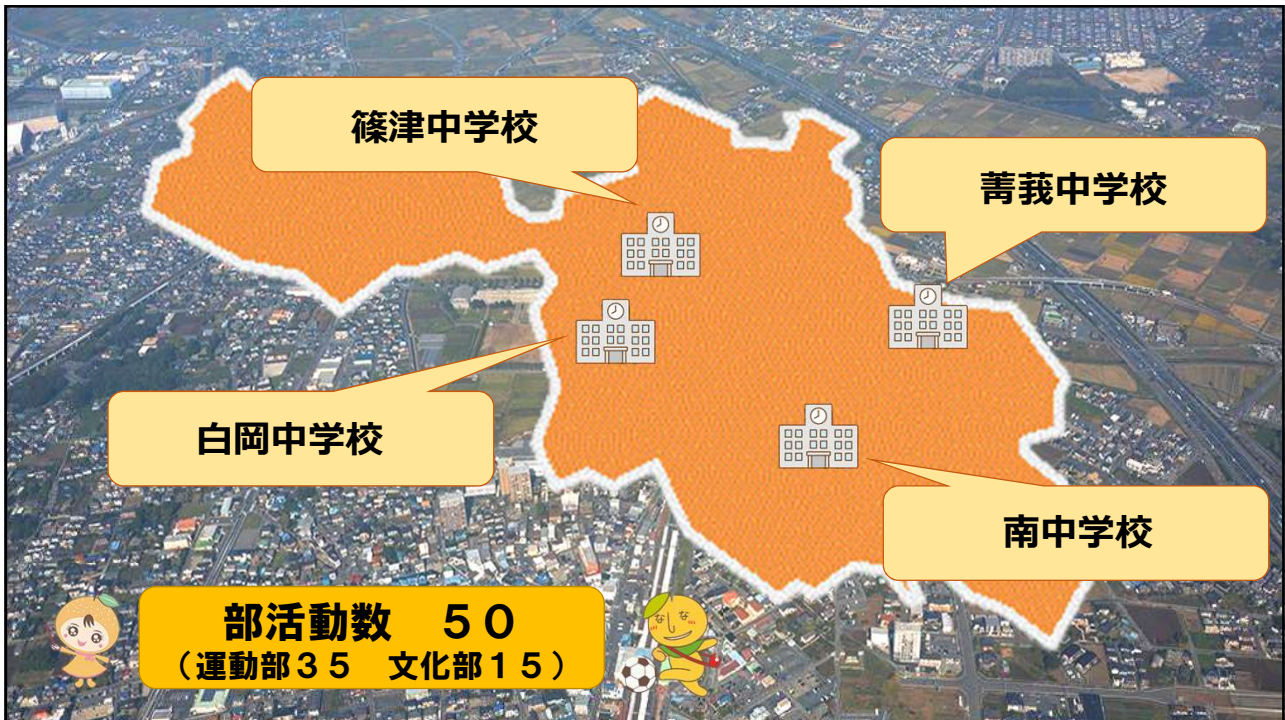
講師 白岡市教育委員会教育指導課 指導主事 石島 隆志



あなたの街の部活動づくり
「運動部活動の地域移行」セミナー
～第2回京都府地域運動部活動説明会～
基調講演Ⅱ 『地域移行の取組について』



埼玉県 白岡市教育委員会 教育指導課
令和4年9月5日（月）





白岡市の特徴的なスポーツ環境

アダプテッド・スポーツ

埼玉西武ライオンズと連携協力に関する基本協定

総合型地域スポーツクラブ

- ・篠津小総合クラブ
- ・NPO法人白岡Sport-verein
- ・NPO法人SHIRAOKA K'sフットボールクラブ

白岡市体育協会

野球連盟、ソフトボール協会、バレーボール連盟、卓球連盟、
サッカー協会、剣道連盟、ソフトテニス連盟、バドミントン連盟、
テニス協会、陸上競技協会、ゴルフ協会
グラウンド・ゴルフ連盟、ボウリング協会、スポーツ少年団



白岡市の特徴的なスポーツ環境

スポーツ少年団

野球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール
サッカー、空手、剣道、バドミントン

民間スポーツクラブ

陸上、卓球、なぎなた、ラグビー、ダンス、水泳
ソフトテニス 等

部活動ボランティア指導員 約25名

総合型地域スポーツクラブ NPO法人白岡Sport-verein

中学生向けのスポーツ教室等を年に数回開催

地域の方々の支えにより充実した部活動が展開



白岡市における地域部活動の展開イメージ



中学校部活動：中学校の教職員が指導者（顧問）となる現行の部活動
地域部活動：地域人材が指導者（コーチ）となる部活動 ※これまでの外部指導者とは違い、中学校の教職員が立ち会わなくても単独で指導が可能となる。地域人材として地域のクラブ指導者や保護者、退職教職員の他、現役の小・中学校の教職員が兼職兼業として指導にあたることも考えられる。

※上記計画については、あくまでも予定であり一部変更になる場合があります。



有識者会議（勉強会）の実施

第1回

学習院大学文学部教育学科 教授 長沼 豊 先生

- ・部活動の方針の在り方について
- ・平日部活動と休日部活動の在り方について
- ・受益者負担の在り方について

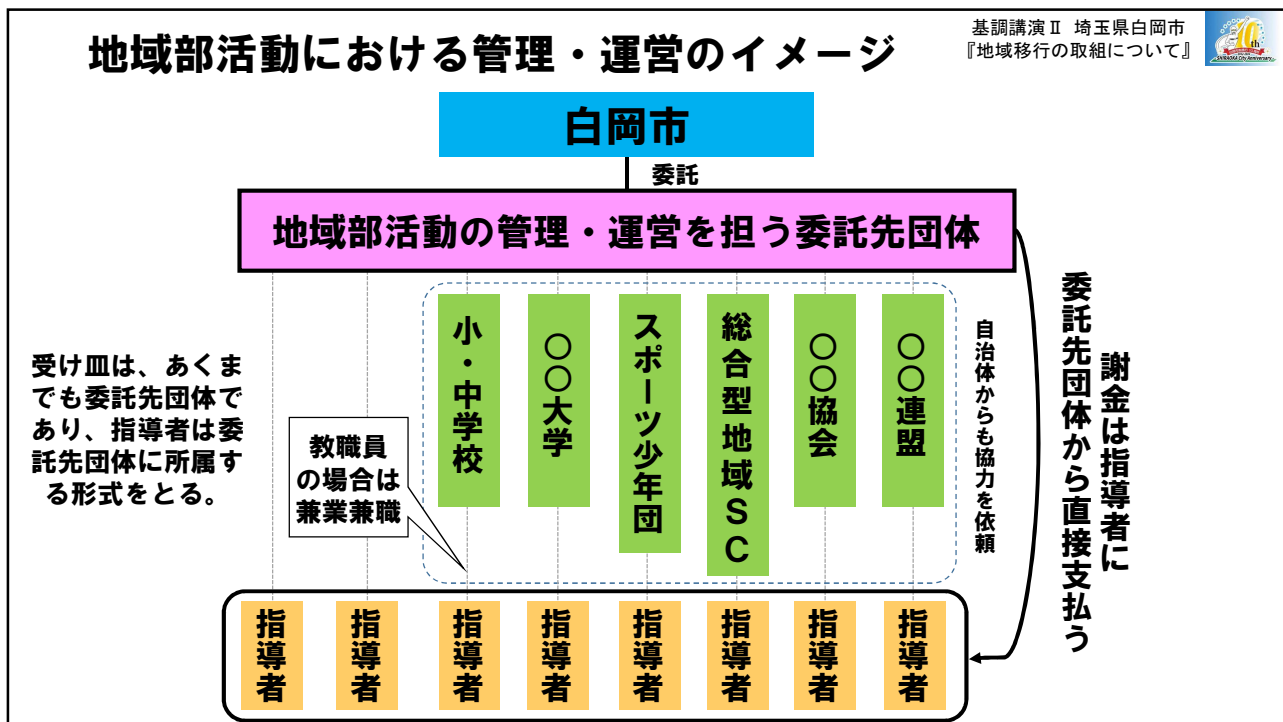
第2回

埼玉県教職員組合

- ・休日の部活動の地域移行に係るメリットとデメリットについて
- ・地域部活動の可能性について

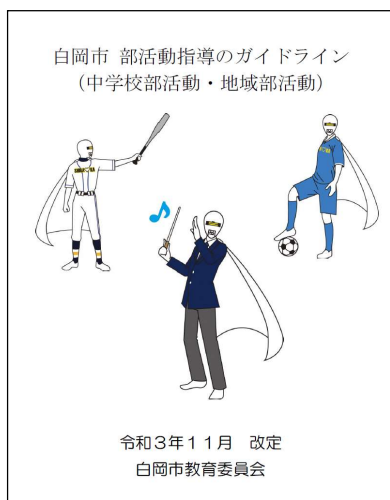
地域部活動における管理・運営のイメージ

基調講演Ⅱ 埼玉県白岡市
『地域移行の取組について』



中学校部活動・地域部活動ガイドラインの策定

基調講演Ⅱ 埼玉県白岡市
『地域移行の取組について』



生徒の健康面に配慮し、**中学校部活動と地域部活動を合算して1週間のうち2日分以上を休養日とすること。**

なお、**中学校部活動のみの活動の場合は、土日のどちらかを休養日とすること。**

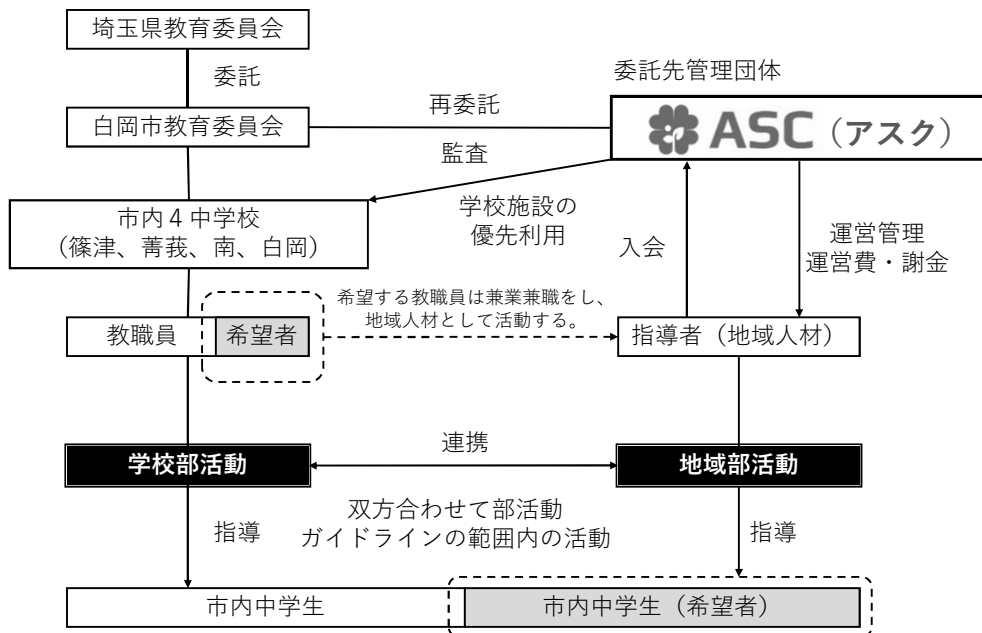
地域部活動に移行した部活動の活動について盛り込む



中学校部活動と地域部活動の比較（R3）

	中学校部活動	地域部活動
位置付け	学校管理下の教育活動ではあるが 教育課程外の活動	学校管理下外の教育活動
活動内容	生徒による主体的な活動	生徒による主体的な活動
指導者	教職員	地域部活動指導員 ※教職員の兼業兼職可
活動日数	平日4日以内 土日1日以内	土日2日以内 ※中学校部活動と合わせて 週5日以内
活動場所	学校施設	学校施設
鍵の管理	学校（教職員）	管理団体（地域部活動指導員） ※管理方法等は教育委員会と協議
手当・謝金	2,700円/1日 (休日2時間1分以上)	1,228円/1時間 ※原則、1日3時間以内
生徒の保険	日本スポーツ振興センター 災害共済給付制度	スポーツ安全保険
指導者の保険	労務災害 等	スポーツ安全保険
責任の所在	校長、設置者	管理団体、設置者

地域部活動の設置イメージ図（R3）





白岡市地域部活動一覧（R3）

運動部		文化部	
篠津中学校	剣道部	菁莪中学校	吹奏楽部
篠津中学校	ソフトテニス部	南中学校	吹奏楽部
篠津中学校	野球部		
菁莪中学校	男子バスケットボール部		
南中学校	野球部		
南中学校	女子ソフトテニス部		
南中学校	女子バレーボール部		
白岡中学校	女子ソフトテニス部		



各種説明会の実施（R3）

- ①**教職員向け説明会（学校ごとに計4回）**
教育委員会から各学校に出向いて説明
- ②**生徒向け説明会（部活動ごとに計10回）**
部活動の顧問と委託先団体、指導者
- ③**保護者向け説明会（委託先団体主催で計4回）**
市教委から地域部活動について説明
委託先団体からは入会手続き等についての説明
- ④**新入生保護者説明会にて説明（学校ごとに計4回）**
市教委から地域部活動について説明



地域部活動移行のメリット・デメリット (生徒・保護者)

メリット

- 土日両日の活動が可能
※必ずしも両日活動しなければならないわけではない。
※土日両日活動した場合、平日（中学校部活動）は3日間以内の活動となる。
- より専門的な指導が受けられる
- 将来的には競技種目等の選択肢が増える
- 教科指導等がより充実する

デメリット

- 学校管理下外
- 保険の加入が必要
※今年度は、スポーツ安全保険に負担金無しで加入
- 将来的には受益者負担が必要
※今年度は負担を求めません。



地域部活動移行のメリット・デメリット (教職員が兼職兼業で指導する場合)

メリット

- 土日両日の活動が可能
※必ずしも両日活動しなければならないわけではない。
※土日両日活動した場合、平日（中学校部活動）は3日間以内の活動となる。
- 手当（謝金）が増額
※3時間活動した場合 中学校部活動 2,700円
地域部活動 3,684円
- 将来的には平日にも適用
(勤務時間外の部活動指導にも謝金)

デメリット

- 公務外
(労務災害等の対象外)
- 学校管理下外
- 兼職承認願の提出及び承認が必要
- 年間の収入が20万円以上で確定申告が必要



地域部活動移行のメリット・デメリット (部活動ボランティア指導員が指導する場合)

メリット

- ・ 単独での指導が可能
※教職員の負担が軽減、教科指導等に専念できる。
- ・ 土日両日の活動が可能
※必ずしも両日活動しなければならないわけではない。
- ※土日両日活動した場合、平日(中学校部活動)は3日間以内の活動となる。
- ・ 謝金が増額
※部活動ボランティア指導員 5,000円/年
地域部活動 1,228円/時
- ・ 将来的には平日にも適用

デメリット

- ・ 学校管理下外
- ・ ある程度の責任が課される
- ・ 中学校部活動との連携が必要
- ・ 指導員としての評価や運営費等の監査の対象
- ・ 大会運営等に協力
- ・ 年間の収入が20万円以上で確定申告が必要



地域部活動現地視察会の実施



主催者 委託先団体

参会者 市長、県議会議員、市議会議員、県職員、市職員、
市内小・中学校長、マスメディア 等



実態調査アンケートの概要

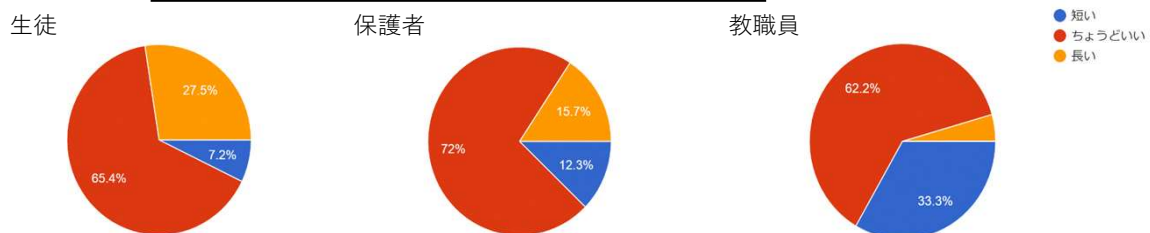
調査の概要

- (1) 調査目的：白岡市内の中学校における部活動の実態及び地域部活動への移行に向けた希望等について把握する。
- (2) 調査期間：令和3年8月6日（金）～
令和3年8月15日（日）
- (3) 調査方法：インターネットによる無記名回答
(市内中学校4校からメール配信で各家庭及び教職員に依頼)
- (4) 調査対象：市内中学校1・2年生の生徒及び保護者、
中学校教職員
- (5) 回答率：約70%



実態調査アンケートの概要

1週間当たりの活動時間をどう感じるか (平日4日2時間 休日1日3時間)



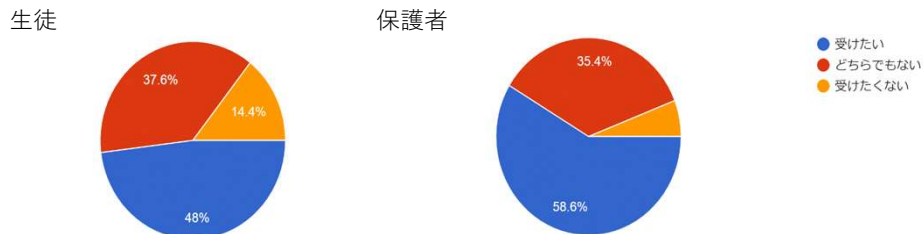
- ・概ね適当な活動時間
- ・生徒は長いと感じ、教職員は短いと感じる傾向

ガイドライン通りの活動時間が基本となる



実態調査アンケートの概要

地域の専門家による指導を受けたいか



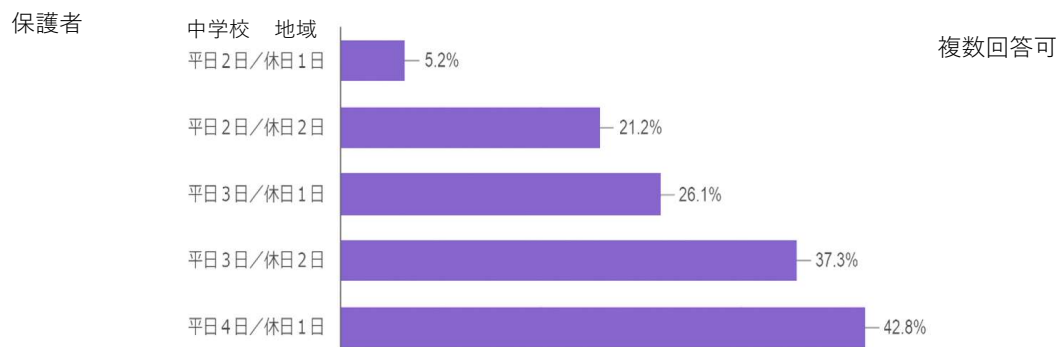
- ・ 生徒、保護者も半数近くが指導を受けたいと回答
- ・ 一方で、生徒は15%が受けたくないと回答

指導者が地域人材かよりも適任かどうか



実態調査アンケートの概要

休日が地域の専門家による活動となった場合の活動希望日数



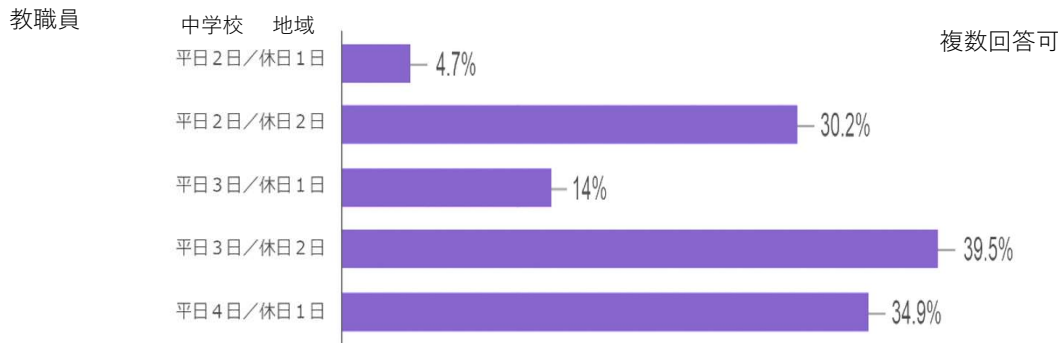
- ・ ガイドライン通りが最も多いが平日3日/休日2日を希望する声も多い

保護者は専門家による指導を望んでいる



実態調査アンケートの概要

休日が地域の専門家による活動となった場合の活動希望日数



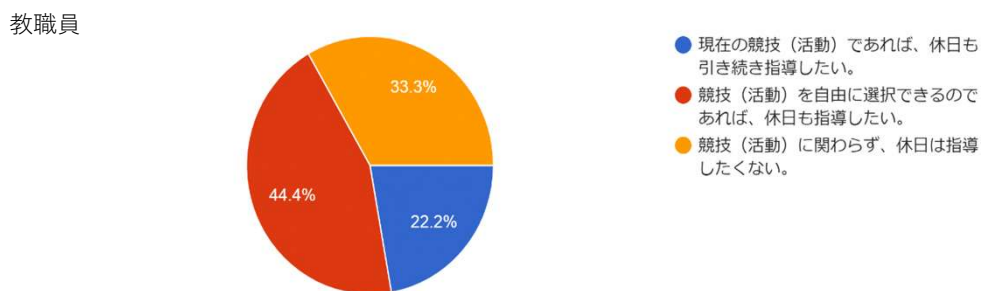
- ・ 教職員は平日3日/休日2日が最も多い

働き方改革にもつなげるため白岡市独自のガイドラインを策定



実態調査アンケートの概要

教職員の休日の部活動の指導希望



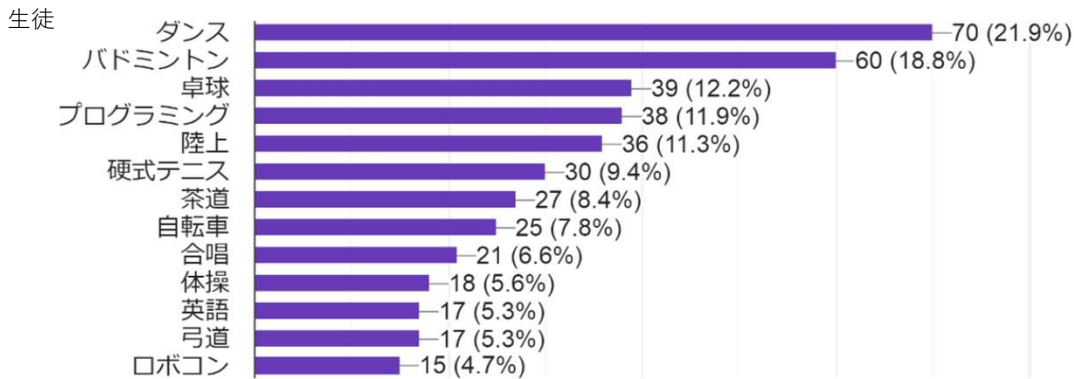
- ・ 3人に1人は指導を望まない
- ・ 3人に2人は休日においても指導を望んでいる
ただし、競技(活動)の内容による

活動を望む教職員は非常に多いが、同調圧力の意識改革も必要



実態調査アンケートの概要

やってみたい部活動 ※通学している中学校にない競技（活動）



- ・どの中学校にもないダンスが人気
- ・バドミントンや卓球、陸上は一部の中学校にしかない

このような生徒達の声（願い）にも応えてあげたい



実態調査アンケートの概要

自由記述（生徒）

- ・部活の選択肢が少ないのでもっと増やして欲しい。
- ・小学生のソフトボールチームが白岡市内に3つあるのに、部活としてないのは悲しいです。
- ・部活を2つ掛け持ちできるようにしたら良いと思う。
- ・好きな時に休みたい。塾みたいな感じがいい。
- ・好きでやっているのに、好きな時に休めないのはおかしい。
- ・ジュニアの子達に勝てるわけがない。中学校から始めた子達だけの大会があるといいなと思います。
- ・男女合同部があった方がいと思います。個人種目とかは特に。
- ・コートが少ない。時間をずらせば効率よく練習できる。
- ・今の顧問の〇〇先生がいいです。もっと先生と長く活動したいです。
- ・地域の専門家は、水曜日のナイターでお世話になっている〇〇コーチがいいです！



実態調査アンケートの概要

自由記述（保護者）

- 場所や時間によっては送迎等親の都合で参加出来ない生徒がいたら可哀想かと思えます。
- 行き過ぎた指導をしてしまうことがあった場合、学校が把握できるのが心配。
- 部活動の顧問の先生の負担を減らすためにも外部コーチの積極的な活用をお願いしたいです。
- 先生方の業務縮小には大賛成ですが、中学校での先生との大切な時間を子どもたちから奪わないでほしい。
- 顧問の先生はとても熱心に指導してくださっています。とてもいい部活環境だと思っています。
- 地域の指導者は、私が知る限り部活動としては不適切な方が多い。子供たちや親が指導者を評価する制度を検討してもらいたい。



実態調査アンケートの概要

自由記述（教職員）

- 部活動は完全外部化しないと教員の負担がさらに増えると思います。
- 学校では、部活動以外のことも部活動を通して教えている。そこに温度差ができ、生徒、保護者とトラブルになる。結局...学校ありきの部活動で今後もやるのか、全てを地域にするのか、この2択しかないと思う。
- 地域に移行するのであれば、大会やコンクールを休みの日に実施する必要がある。大会の主催者が考え方を変えないとどうにもならない。
- 多様化の時代。生徒指導面など不安な面はありますが、これからは子供たちにいろいろな経験を積みませ多様な価値観を学ぶことが大切だと感じます。
- 指導者の力量により、生徒のメンタルがケアできるか心配。
- 部活動が理由でトラブルや不登校になる生徒を何人も見てきました。責任は誰がとるのでしょうか。



課題と成果

- ① 委託先団体（受け皿）について
- ② 指導者について
- ③ 活動時間及び活動日数について
- ④ 教職員の兼職兼業について
- ⑤ 施設・用具の管理について
- ⑥ 大会・コンクールの在り方について
- ⑦ 受益者負担額と保険料について
- ⑧ その他



課題と成果 ① 委託先団体（受け皿）について

- 令和3年度は委託先団体がPTAを母体とした組織のため、連携・調整については容易であった。
- 学校や生徒・保護者との連携を重視した運営を行っており、教職員の負担軽減等の成果があげられた。
- 学校ごとの事情に沿った対応や各部活動顧問との調整など、委託先と現場との調整は、丁寧に対応するほど難しくなる。
- ボランティア意識が強く、契約を請け負う事業者としての意識や責任感がやや弱いことが課題として残る。

**令和4年度以降の事業規模の拡大については負担が大き
く、将来的に50部＋合同部活動となると請け負えない**



令和4年度は民間企業も含めてプロポーザルを実施



課題と成果 ② 指導者について

- 小・中学校の教職員による兼職兼業はかかせない。
- 退職教員や教員を目指す大学生の配置も必要となる。
- 中学校長から推薦のあった部活動ボランティア指導員（外部指導者）から地域部活動の指導者として配置することで、学校・生徒・保護者への大きな混乱はなくスムーズな形で実施が可能となる。→ハードルは低くなるが地域移行の意義は？
- 指導者の数・質の確保とそのマッチング
- 指導者の評価システムや研修制度をどのように構築するべきか

指導者資格と指導者研修制度の必要性
公認スポーツ指導者資格（JSPO）の活用
→教職員にとってはハードルが高い



課題と成果 ③ 活動時間及び活動日数について

- 中学校部活動と地域部活動を統合した白岡市独自の部活動ガイドラインを策定
- 地域部活動へ移行した部活動については、土日の実施を認めたことで、その分、平日の活動が減り、平日の部活動に係る教職員の負担が軽減 →当初意見としてはあまり挙がらなかった平日3日案も教職員から挙がる
- 平日3日・休日2日の活動となることで、国や県の示すガイドラインとは異なる →あくまでも試験的

教職員組合としてはこのガイドラインに反対意見
「そもそも切り離さないと改革にならない」

学校現場としては好評 生徒・保護者は賛否両論



課題と成果 ④ 教職員の兼職兼業について

- 部活動の指導をしたい教員は一定数（白岡市の場合は競技を自由に選択できれば6割以上）おり、そういった教職員については兼職兼業を認めている
→しかしながら、負担に感じる教職員については、同調圧力にならないように世論レベルの意識改革が必要
- 本来業務へ影響が生じることなく、心身に過重な負担とならないようにすることが必要

現行の特殊業務手当（部活動手当）や兼職兼業による確定申告、36協定等の労務としての視点を含めたガイドラインの必要性



課題と成果 ⑤ 施設・用具の管理について

- 地域部活動は学校管理下外となるが、学校施設の優先的な使用について、学校施設や生涯学習の所管課と調整の上、施設の貸し出しや施錠管理をしており、現時点で特に大きな問題は起きていない。
- 活動時に破損等が発生した場合に、修繕や新たな補充等の対応について調整が困難となることが懸念
- 合同部活動が実施された場合には、場所の確保や施設の管理、責任の所在等において調整が必要
- 学校の施設開放における他の団体との調整について、不公平感が生じないようにする必要がある。

**開かれた学校にもつながり、地域としては好印象
学校を管理する立場としては、負担が増える**



課題と成果 ⑥ 大会・コンクールの在り方について

- 中体連主催の大会等において、複数の学校による合同部活動によりチーム編成をした場合、編成の条件によっては参加資格がないことが問題となる。
→中体連は検討開始 白岡市ではクラブチームが中体連主催大会に参加表明
- 大会等を開催する曜日によって、引率責任者が異なり混乱が生じる。また、役員を誰が行うのか整理が必要である。
- 大会やコンクールの成績が高等学校等の調査書に示されることへの生徒や保護者の不安感

**中体連や吹奏楽連盟が先にビジョンを示す必要性
地域は学校対抗の意識が根強い**



課題と成果 ⑦ 受益者負担額と保険料について

- 活動内容や時間、指導者の人数や資格等により部活動ごとに会費等の額が変わってしまうことに対する不公平感
→学校給食制度のような考え方が必要か
- 経済的に困窮する家庭に対する支援についての検討が必要
→地域部活動を教育活動として捉え、要保護・準要保護世帯への就学援助制度の対象とする方向で検討
- 保険内容について日本スポーツ振興センター災害共済給付制度との違いについて、保護者への理解が必要

**受益者負担額は月1500円が限度か
残りは行政負担かスポンサーが必要
塾や習い事（クラブチーム）と何が違う？**

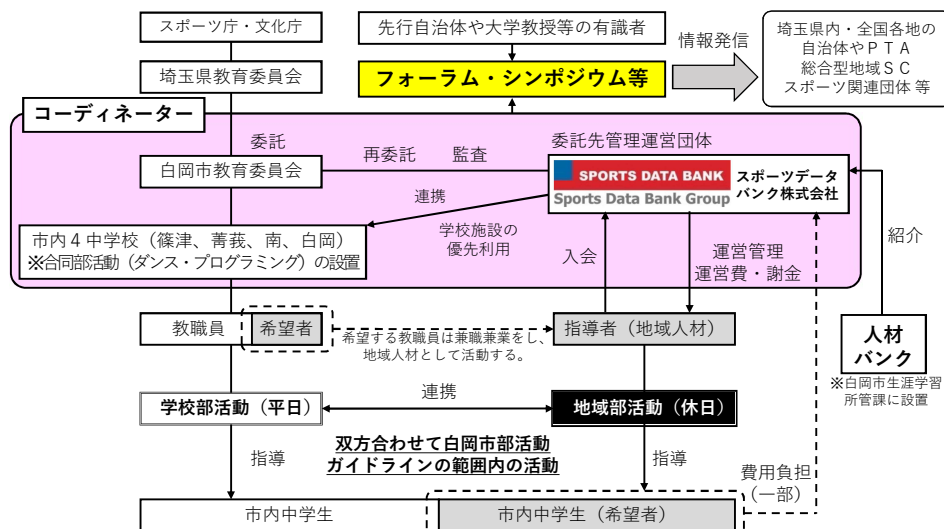


課題と成果 ⑧ その他

- 個人情報の共有と管理
学校が保有する情報を委託先団体にどこまで提供するか
- 委託先団体との契約
単年度契約 長期複数年度契約 契約を結ばない
協定の締結 条例による整備
- 地域部活動の拡大手順
段階的な移行を進める場合、移行した部と移行しなかった部
の間で受益者負担等について不公平感が生じてしまう。
- 関係団体等との連携
社会教育団体や関係所管課、学校等の立場で考え方の相違が
ある。ベクトルを同じ方向にするには、関係法規、ガイドラ
インなど制度として整えることも必要



地域部活動の設置イメージ図（R4）



自治体別意見交流

テ ー マ

『わたしの街の部活動づくりをスタートするために』

コーディネーター

立命館大学スポーツ健康科学部学部長 教授 長積 仁

アドバイザー

つくば市教育局学び推進課 指導主事 永岡 範之

白岡市教育委員会教育指導課 指導主事 石島 隆志

京都府文化スポーツ部スポーツ振興課 課長 村井 伸也

京都府教育庁指導部保健体育課 課長 柏木 佳久

公益財団法人京都府スポーツ協会 事務局次長 比護 信子

自治体別意見交流
『わたしの街の部活動づくりをスタートするために』

< メ モ >